

北九州空港機能強化・利用促進特別委員会記録（No. 26）

1 日 時 令和5年12月7日（木）
午後 1時00分 開会
午後 1時47分 閉会

2 場 所 第2委員会室

3 出席委員（10人）

委 員 長	日 野 雄 二	副 委 員 長	渡 辺 徹
委 員	吉 村 太 志	委 員	田 中 元
委 員	渡 辺 修 一	委 員	金 子 秀 一
委 員	奥 村 直 樹	委 員	大久保 無 我
委 員	高 橋 都	委 員	藤 沢 加 代

4 欠席委員（0人）

5 出席説明員

港湾空港局長	佐 溝 圭太郎	空港企画部長	田 原 温
誘致・集客担当部長	田 代 昇 三	空港企画課長	高 岡 智 靖
空港機能強化担当課長	椿 辰一郎	集客担当課長	尾 崎 英 一
			外 関係職員

6 事務局職員

政策調査課長	森 幸 二	政策担当係長	宮 崎 浩 平
調 査 係	伊 東 加 奈		

7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	市制60周年記念シンポジウムの実施結果について	港湾空港局より別添資料のとおり報告を受けた。
2	貨物専用便機材見学会の実施結果について	
3	北九州空港へチャーター便を運航していたハイエアの状況について	
4	行政視察について	令和6年1月22日から23日までの2日間で行政視察を行うことを決定した。
5	現地視察について	北九州空港の視察を行うことを決定した。

8 会議の経過

○委員長（日野雄二君）開会します。

本日は、港湾空港局から3件報告を受けた後、所管事務の調査を行います。

初めに、港湾空港局から、市制60周年記念シンポジウムの実施結果について、貨物専用便機材見学会の実施結果について、北九州空港へチャーター便を運航していたハイエアの状況についての以上3件について、一括して報告を受けます。空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 それでは、目次の第1項目め、報告事項1でございます。市制60周年記念シンポジウム（北九州空港のさらなる飛躍をめざして）の実施について御報告いたします。

資料の2ページ目を御覧ください。

市制60周年となる本年、北九州空港では悲願の滑走路3,000メートル化が決定し、令和9年度の供用に向け、12月2日には事業が着工いたしました。これを記念し、北九州空港のこれまでの歩みを振り返りながら、滑走路延長の効果と今後の成長戦略を考えるためのシンポジウムを去る11月17日に開催いたしました。概要は記載のとおりであります。

第1部の基調講演では、片山副市長から北九州空港の歴史の振り返りと展望について、また、株式会社安川ロジステックの小関社長から北九州空港の物流拠点化への期待について御講演をいただきました。また、第2部のパネルディスカッションでは、慶應大学の加藤一誠教授をモデレーターとし、株式会社日本経済研究所の平島様、北九州商工会議所の羽田野専務理事、佐賀大学の亀山教授、日本航空株式会社の鐵田様及び港湾空港局長をパネラーとして、北九州空港の現状、課題を整理し、対応について御討議いただきました。それぞれの専門的な立場から北九州空港を評価いただき、今後の展望に向けた目指すべきありたい姿のヒントを得ることができました。今後も、北九州空港の機能強化や利用促進に努めてまいります。

以上で市制 60 周年記念シンポジウム（北九州空港のさらなる飛躍をめざして）の実施結果についての報告を終わります。

○委員長（日野雄二君） 空港企画課長。

○空港企画課長 次に、貨物専用便機材見学会の実施結果について御報告いたします。

資料の 3 ページを御覧ください。

令和 6 年 4 月に運航を開始しますヤマトグループの貨物定期便につきまして、先月 22 日から実機を使った運航乗務員の就航前飛行訓練が開始されました。北九州空港へは翌 23 日に初飛来いたしまして、多くの報道関係者に取材いただきました。また、11 月 30 日には、地元自治体や議会関係の皆様、報道関係者などを招待しまして、機材の内覧会、見学会が開催されております。約 150 人に御参加いただきまして、当日はお寒い中、北九州市議会の皆様にも多数御参加いただきました。ありがとうございます。

1 番、内覧会の概要でございます。当日は、下の写真のとおり、ヤマトグループのクロネコマークが描かれました貨物専用機が北九州空港へ着陸しまして、来賓の皆様が待つ 5 番スポットで機材をお迎えいただきました。スポットインの後、貨物機ならではのメインデッキに設置された大きなカーゴドアのオープンの様子を見ていただき、主催者のヤマト運輸株式会社、日本航空株式会社、スプリング・ジャパン株式会社の御挨拶、続きまして招待の皆様の代表にも加わっていただきまして記念撮影が行われたところでございます。続きまして、通常なかなか入ることのできない貨物機の中に入っての内覧、説明会が行われまして、御参加いただいた皆様からも大変好評をいただきました。

2 番、商業運航の開始についてでございます。商業運航の開始につきましては、運航開始日が令和 6 年 4 月 11 日と決定しました。北九州空港の運航便数は、当初、毎日 2 往復 4 便から、夏頃には 3 往復 6 便、最終的には 5 往復 10 便、毎日運航いただく予定となっております。

なお、ヤマトグループの貨物事業の詳細につきましては、この後、空港でヤマト運輸株式会社様から御説明いただくこととなっております。

以上で貨物専用便機材見学会の実施結果についての報告を終わります。

○委員長（日野雄二君） 集客担当課長。

○集客担当課長 次に、北九州空港へチャーター便を運航していた株式会社ハイエアの状況について御報告いたします。

資料の 4 ページを御覧ください。

ハイエアによる北九州～務安間のチャーター便につきまして、6 月 26 日の本委員会で、この資料を用いまして、5 月 24 日から 8 月 31 日まで就航する旨、御報告したところでございます。結果としまして、期間中、合計 124 便が運航され、利用者数は 2,788 名でございました。

資料の 5 ページを御覧ください。

8 月末のチャーター便運航終了後、9 月 19 日に、同社が韓国における企業回生手続の申請を

したことがホームページ上で発表され、経営が事実上、破綻したことが明らかになりました。

以上で全ての御報告を終わります。

○委員長（日野雄二君） ただいまの報告に対し、質問、意見を受けます。なお、当局の答弁の際は補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

質問はありませんか。奥村委員。

○委員（奥村直樹君） 私からは、最後にあったハイエアの件を少しお伺いしたいと思います。

この報告の中にはなかったんですが、今回、本会議で佐藤議員から質問が幾つかあったのを聞いたので、その件も絡めてお伺いしたいわけですが、まず、今回のハイエアが運休になったことによって、日本側のいろいろな企業、関連企業にも負債が出ていると伺ったので、その件を確認させていただきたいと思います。

○委員長（日野雄二君） 集客担当課長。

○集客担当課長 北九州空港関係で運航を支えてくださいました企業の未回収債権が約1,950万円あると伺っているところがございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） それについて、これも本会議でありましたけれども、今回、実際このハイエアの運航に関連して業者さんたちが1,950万円、今のところ未回収、負債があるということなんですけれども、その点について、市が補填するということはあるのかなのかということも確認させていただきたいと思います。

○委員長（日野雄二君） 集客担当課長。

○集客担当課長 ハイエアと先ほどの各事業者様の契約の部分でございますけれども、あくまでも各事業者様の判断によってハイエアとの契約を行ったものでございまして、市からの補填は考えてございません。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） 今回、ハイエアの事業を受けたというのも、市を挙げて誘致をしてきて、市が誘致した案件だからということで事業を受けたという面もあるのではないかと思います。要は市を信頼して、市が誘致したのでなければ受けなかったかもしれないという可能性もあると思いますが、市の信頼をもって受けたのかどうかというのはどのように捉えていますか。

○委員長（日野雄二君） 集客担当課長。

○集客担当課長 基本的には、就航が決まるまで、まだ航空会社様が考えていらっしゃる段階で、私どもはあまり外部にそういうことを申し上げるということにはございません。今回のケースも、市長がトップセールスを行ったのは5月9日でございますが、まだハイエアが就航検討中でしたため、その時点で公表も控えておりましたし、あまり外部にそういうことは申し上げておりません。就航決定後の5月22日の日に、市長がトップセールスを行ったということを公表したものでございまして、市長がトップセールスしたとか市が何らかのセールスを

行ったからということで民間事業者様の契約うんぬんに、もちろん市からもそういったことを働きかけることもございませんし、契約に関してですね。民間事業者様の契約に直接の影響はないものと考えてございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）ということは、基本的には、こういった民間の事業というのは民が勝手にやることなんで、結果として……、これちょっと後で聞きます。今の件は分かりました。

では、ハイエアさんの就航に対する補助金の話も本会議であったかと思えますけれども、たしか補助金については支払いがないと聞いたのですが、そこも確認を改めてお願いいたします。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 ハイエアへの助成金は支払ってございません。以上です。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）支払わないというのは、要件は満たしていたんですかね。満たしたけれど払わないという状況なのか、何か要件を満たさなかったから払わないのか、どういう状況でしょうか。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 そもそも手続自体が、実績払いという形になってございまして、手続自体が完了しておりません。それから、支払いの是非に関しましては、弁護士様とも相談の上、検討していくというふうなことで考えてございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）実績払いということは、実績は満たしたんですかね。さっき言った、何が要件で、それを満たしたのかどうかというのはどうでしょうか。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 確かに、運航したという実績がございまして。ただし、運航した直後、8月まで運航して、9月に経営上の不安といいますか、そういったところが表面化しておりますので、現在支払いを止めているという状況でございます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）ごめんなさい。さっき聞いたのが、要件は何だったんですか。8月まで運航することがそもそも要件だったんですかね。今回は破綻しましたが、例えば、破綻になっていないとしたらどういう条件で払っていたんですかね。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 仮に、こういう経営不安という状況がなければ、交付の申請をいただいた上で決定をし、請求をいただくというふうな形になっていたかと思えます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）何度もすいません。聞き方が悪いのかもしれないのですが、では、今回

の破綻状況にならなければ、順調にいけば、何月に要請があって何月に払うというのはどういうスケジュールだったんですか、もともとは。それを満たしていたんですかね。今こういう状況だから止まっているという話なのですが、こういう状況でなければ、実績としては出す状況になっていたということですか。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 書類自体がまだ整っているわけではないのですが、書類を整えば、そういった形で手続は流れていくのだろうと思います。

○委員長（日野雄二君）今のタイムスケジュールは、予定でいったら何月何日ぐらいで、倒産していなければ、払っていたのかということなので、例えば、8月31日まで運航したわけですから、9月末には払う予定であったであろうということを知りたいんですね。それを、例えば今回、ほかのハンドリング等々の費用を払っていない、1,950万円。それは払っていないわけですから。ならば、これは倒産していなかったら、そのお金を払うときにこんなことも調べて、ちゃんと下請に払ってなければ渡さないとか、そんなことも考えられるわけ。そんなのは一切関係ないわけ。ただ飛ばした飛行機に対する補助金、運航助成ということで考えていいわけですか。集客担当課長。

○集客担当課長 まず、スケジュールに関しましては、通常でいけば、9月中に交付決定が出ると。10月中に請求のやり取りをして、11月もしくは12月にはお支払いをする流れになっていたのだろうと思います。それから、民間事業者様への支払いにつきましては、補助金の支払いに関する直接的な要件ではございませんが、ただ、私どもとしてはそういった指導に関しては行ってございました。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）補足ありがとうございます。ということであれば、今弁護士さんと相談されているということなのですが、一応今は、本来であれば申請できる要件は満たしているということだと思うので、今後向こうから申請が、今そんな状況じゃないかもしれませんが、例えば向こうも弁護士を立てて請求をしてきた場合というのは支払う可能性はあるわけですかね。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 その辺も含めまして、弁護士様と協議の上で対応したいと考えてございます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）ということは、弁護士さんと協議するのは、本当は払わないといけない状況にあるんだけど、払わなくて済むようにしようという、そういうことですかね。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 現段階で、そもそも支払わなければならないというふうなことも言えないと考えてございます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）であれば、今の段階で弁護士さんをつけているというのはそうなるかもしれないからですか。ちょっとよく分からないのですが、要は、私のイメージは、もともと約束していたから払わないといけなくなる可能性があるのではないかと思っているのです。8月まで運航を一応しているわけなのでというふうに向こうは主張してくるのではないかと感じるのですが、そこを懸念して弁護士をつけているわけではないのですか。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 そもそもこの案件、金額等の明示も相手方に行っておりません。ただ、こういった事柄の性質上もごさいますので、そこは我々としても慎重に弁護士さんと相談しながらやっているというふうなことをごさいます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）決まっていないことなので、うまく議論できないかもしれませんが、金額を明示していないということは……、では、間に質問を挟ませてもらいますが、ハイエアと同じように補助金の対象になる航空業者さんはほかにあるのでしょうか。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 今、定期便を運航してくださっているジンエアーさんだとか、そういった航空会社が対象になってきます。ただ、これは定期便の話なので、スキームは異なります。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）そうすると、先ほど言った金額がまだ今決まっていないということは、ジンエアーさんなども同じで、要は事業が終わるまで幾ら補助金が出るかは分からないという状況なのですか。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 はい。あくまでも実績払いでございますので、確定するのはその後ということになります。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）実績払いというのは、例えば1回の就航で掛け幾らなのか、それとも何回超えるか、掛ける幾らも決まっていないとか、そういうことですか。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 1便当たり幾らというふうな形で制度はつくってございます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）何度もすみません。ということは、話を戻すと、さっき言ったハイエアさんが金額が決まっていないのはどうして決まっていないのですか。8月末で便数は決まっているじゃないですか。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○**集客担当課長** もちろん、1便当たり幾らというのはあるのですが、例えば今回のハイエアさんの場合、機材が通常の飛行機より小さかったりといったこともありますので、その辺の交渉をしていたところでございます。以上でございます。

○**委員長（日野雄二君）** 奥村委員。

○**委員（奥村直樹君）** ちょっとよく分かんないな。どっちにしても、8月末に終わった事業者さんの金額がいまだに決まっていないということは、ほかの事業者さんも同じようなことになるということですよ。幾ら補助金が出るかが分からないまま、後になって幾らか来るんだなという状況になるということですか。

○**委員長（日野雄二君）** 集客担当課長。

○**集客担当課長** 通常の場合であれば大体の目安は分かるもので、もちろん確定ということではないのですが、予測ができる……。

○**委員長（日野雄二君）** 分かるのは、向こうが分かるのか、こちらも分かるのかということ。

○**集客担当課長** 先方が。

○**委員長（日野雄二君）** 港湾空港局の金額を聞きよるんやろ。こちらも計算してんだろ。

○**集客担当課長** もちろん、お互いに大体……。

○**委員長（日野雄二君）** お互いにしていて、港湾空港局がどれだけ金額を考えているの。出ているの、金額は。

○**委員（渡辺徹君）** 委員長ちょっと、人の意見や話を……。

○**委員長（日野雄二君）** いやいや、今、答えんからよ、ちゃんと。

○**集客担当課長** 個別の案件の金額というのは、今後の誘致に支障がありますので、お答えは差し控えさせていただきたいと思います。

○**委員長（日野雄二君）** 奥村委員。

○**委員（奥村直樹君）** 金額はいいんですよ。決まっていないというのが不思議な感じがしてですね。8月末に終わった事業に対していまだに正しい金額が出てこないということは、3か月たっているわけじゃないですか。だから、ほかの、今回みたいに破綻しなくても、3か月たっても金額が決まらないような補助金ということなのかということを知りたいのですが、それとも、今回もめているからそうなっているのですか。

○**委員長（日野雄二君）** 集客担当課長。

○**集客担当課長** そうです。通常の場合ですと、予測可能でありますし、我々と航空会社様との間でそこまでのずれはないものと考えます。

○**委員長（日野雄二君）** 奥村委員。

○**委員（奥村直樹君）** そうすると、要は実績とか貢献度によって額が変わるような補助金だということであれば、逆に利用する側にとっても、これ本当にもらえるのか、みたいな形になりませんか。そういうふう感じたのですが、いかがでしょう。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 今回の場合、特殊な事例でございましたけれども、通常であれば、そういったことはございません、と考えております。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）通常であればというのは、破綻をしなければという意味ですか。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 もちろん、こういった破綻もそうですし、機材のサイズでありますとか、そういったところも含めてでございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）皆さんすみません、何回も。というのも、さっきも言ったのですが、サイズとかってというのは分かるじゃないですか。数字をたたけば自動的に出ると思うんですよ。それ以外の要素というのは、例えば今後の市への貢献度とか、そういう計れないものだったら分かるんですよね。だから、今言ったサイズは分かります。サイズとか人数とかってというのは、それをパソコンに入れば一瞬で出るじゃないですか、幾らってというのが。それ以外に何か要素はありますか、すぐに金額が確定しない要素。それを聞きたい。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 今回チャーター便でございますが、ツアーが前提でございますので、旅行商品があるわけです。そのため、市内の宿泊といったことをお願いしていたのですが、一部、市内を通らない商品があったりといったこともございましたので、その辺で交渉していたところでございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）分かりました。そしたら、ジンエアーさんには支払いが都度行っているのですか。どんなタイミングで行っているのですか。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 基本的には四半期ごとに締めて行っております。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）では、そのタイミングは、四半期だと、直近でいくと、いつまでの分をいつ締めて、いつ支払われたのですか。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 直近ですと、9月になります。四半期ごとですので、9月に締めて12月に支払う予定でございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）それが通常のスケジュールということなのですね。分かりました。そうになると、今言ったようにハイエアの件は、本来でいけば、当然ですが、額が出ている状況じゃ

ないですか。これが出ていないというのは、ある程度早い段階でこういう状況に、破綻というのが見えていたから計算が終わっていないようにも見えるんだけど、そういうわけではないのですよね。逆に、確定しないというのがよく分からなくてですね。9月に締めたら12月に支払えるわけじゃないですか、ジンエアーさんは。それが、さっき言ったようにいろんな要件があるからだとしたら、ほかの会社であってもツアーを通したりしたらそういうふうに延びてしまったりするという、そういう不安定要素があるということなんですかね。

○委員長（日野雄二君） 集客担当課長。

○集客担当課長 今回、そういったことがきちんとまとまる前に、そういったことが固まる前にこういった経営不安という形になってしまったということでございます。

○委員長（日野雄二君） 奥村委員。時間もあんまりないので。

○委員（奥村直樹君） そうですね。申し訳ございません。では最後に、これも本会議でトップセールスなのか、そうではないのかという議論があっていましたが、今回の就航というのは率直に言ってトップセールスのたまものなのかということについて、所感を伺いたいのですが、最後に。

○委員長（日野雄二君） 集客担当課長。

○集客担当課長 最終決定をする上での一つの決め手になったと考えてございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） 市長のトップセールスによって決まったということであれば、そこは信用だったり、みんなで盛り上げていこうという話になっていくことなので、破綻が読めるかどうかというのは当然そのときのタイミングはあるのですが、市を挙げて、市長のトップセールスのたまもので引いた路線が破綻してしまうというのは、市内の業者さんに対する信用も落ちると思います。今言ったように支払いのタイミングの件なども、次から利用しようとする海外の航空業者さんとの信頼ということにも関わってくると思いますので、そこは、トップセールスと言うのであれば、いつもよりも増して慎重に審査をしていただいて、こういったことがまずないようにしていただきたいと思います。市内の業者さんの1,950万円の未払いの件も、稼げる町と言うのであれば、これは正直誰も稼いでいない状態になってしまっているのですし、トップセールスではなくてもしっかり審査していただきたいですし、トップセールスと言うのであれば輪をかけて、こういったことが二度とないようにチェックしていただきたいと思います。

長くなりましてすいません。私は終わります。

○委員長（日野雄二君） 田中委員。

○委員（田中元君） 私からも、最後にトップセールスの成果ということでありましたので、そうなる質問の内容が若干変わってくるのではないかという感じがするのですが、トップセールスで実績を上げたということになって、結果、今の話を聞くと、市は今のところ損失はない

ということ、インバウンドだけ成果として上がってきているということでもあります。多分、損失がなかったのに議会にも報告がなかったのではないかというふうな見方もできます。しかし、そういう企業がチャーター便ですが就航してきて、破綻したということで、本来であればここまで大きな話になることではないのかもしれませんが、破綻したせいでそうなったということになる。もし時期がずれていれば、例えば、助成金まで払った後に破綻したということになれば結構大きな問題になってきて、議会にも報告してくるのではないかという感じがします。まず、今回のことに関して、特別委員会でもそうでしょうし、各議員宛てでも構わなかったのですが、なぜ報告がなかったのかということをお尋ねします。それともう一つが、トップセールスの成果ということであれば、成果は報告するが失敗は報告しないというふうに私は捉えてしまうのですが、その辺の見解をお伺いしたいと思います。

○委員長（日野雄二君） 集客担当課長。

○集客担当課長 まず、この事案をなぜ報告しなかったのかということに関しまして、この事案につきましては、現在、企業回生手続という韓国の企業再生手続を行っているところでございまして、この動向を現在注視しているとともに、先ほど助成金の取扱いのお話がありましたが、弁護士とも継続して協議をしている状況でございまして、御報告できる段階に至っていません。

それから、成果だけでなくちょっと悪い部分といいますか、そういった部分も議会にしっかり報告しなければいけないのではないかとございまして、空港の事業に関しましては、これまでも本委員会、あとは個別にも議員の皆様にご報告を我々としては積極的かつ丁寧に御報告をしてきたところではございますけれども、今回のような特殊な事案につきましては、委員長、副委員長とも御相談をさせていただきまして、必要に応じて御報告をさせていただきたいと考えてございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 田中委員。

○委員（田中元君） ここにおられる特別委員会の委員の皆さんは、執行部の皆さんと同じように、北九州空港をさらに活性化させなければいけないという思いであります。でも、報告を怠ったり漏れたりすると、こういうふうな感じで疑心暗鬼になってしまうことになると思います、少なくともこの中のうち私はですね。なので、同じ方向に向かっていくためには、いいも悪いも共有しながら前へ進んでいかなくてはいけないと思っていますので、今後もそういった意味を持って進めていっていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（日野雄二君） 吉村委員。

○委員（吉村太志君） もう一回確認させてください。5月24日から8月31日にハイエアがチャーター便を北九州空港に乗り入れしてきたということよろしいですか。

○委員長（日野雄二君） 集客担当課長。

○集客担当課長 5月24日から8月31日までの就航期間ということでございます。

○委員長（日野雄二君）吉村委員。

○委員（吉村太志君）分かりました。それが 124 便で、ハイエア自体は当初、北九州市の港湾空港局と話をした分はちゃんと履行はしているということですか。それとも、途中、中途半端になっていたということがあるのですか。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 一部、欠航便が発生したことはございましたが、ほぼ計画どおりと考えてございます。

○委員長（日野雄二君）吉村委員。

○委員（吉村太志君）分かりました。それで、僕が聞きたいのは、これすいません、もしかしたらこの委員会でもあまり言えないこと、これ各空港との競争もあるから、言えないときは言えないと言ってください。お聞きしたいのが、今、ハイエアとは、5月24日から8月31日のチャーター便がうまくいけば、今回はインバウンド目的でしたが、今後、北九州からも務安に行けるような、そういう未来の話というのは多少はできていたのか。それとも、ただ単純に8月31日までというような話なのか。その辺、できるようにであればお聞かせください。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 そういった方向で誘致はしておりましたが、8月31日以降に関しての具体的な話にまでは至っていない状況でございます。

○委員長（日野雄二君）吉村委員。

○委員（吉村太志君）それでは、ハイエアがインターネットにこういうふうに休止しますというのを出したのがたしか9月19日と書いていましたが、そのときまでに、8月31日から19日間あった中で、そういう先の話はなかったのでしょうか。そのときに、先ほど奥村委員からも出たように、運航助成金の支払いというような話も多少は出ていたのか。それとも、全くないまま中止のようになってしまったのか。ちょっとお聞かせください。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 資料の中にも小さい字で入っているのですが、9月1日の日に国内線の全便が運航停止になったという事実がございます。したがって、先の話であるとか、そういうところに関してはこの期間やっていなかったというのが状況でございます。

○委員長（日野雄二君）吉村委員。

○委員（吉村太志君）9月1日というのは書いてあって、私も気づいたのですが、ただ、これが出たのが、たしか19日で、協力会社との契約満了によりメールでしか連絡できないと、私はそういうふう聞いたのですが、これが出たのは9月19日でしょ。違うんですかね。

○委員長（日野雄二君）集客担当課長。

○集客担当課長 9月1日の日に運休になったというふうな案内は出ておりました。これは、9月19日の企業再生の申請によりというふうな御案内を今ここに添付しておるところでございます。

ます。

○委員長（日野雄二君） 吉村委員。

○委員（吉村太志君） 分かりました。先ほど奥村委員からも話があったように、助成金については弁護士さんと、どちら側の弁護士、日本側の弁護士なのか韓国側の弁護士なのか、また、海外とのやり取りって海外の事情もあるから、その辺はしっかり話はされているのですか。その中で今回、市としては支払いは、恐らく今後の話もやめていったところには話もできないでしょうが、そういった見解で言われたのか。その辺、分かれば教えてください。

○委員長（日野雄二君） 集客担当課長。

○集客担当課長 私どもは、もちろん日本の法律の専門家である日本の弁護士、それから、念のために韓国側の法律に詳しい弁護士の方にも確認をしているところでございます。現状、支払いに関しては保留しているという状況でございます。

○委員長（日野雄二君） 吉村委員。

○委員（吉村太志君） 分かりました。今回の件でいったら、何回も言いますが、5月24日から8月31日の履行は向こうはしっかりやっていたということですね、お互いが成立していたということで。今後、未来に向けて、本当にうちのためになる部分であれば運航助成金の支払いもあると。ちょっとお尋ねしたいのですが、先ほど金額がどうしたこうしたと言うけれど、これは各空港でもいろんな形で海外の航空会社とのそういったやり取りは行っているんですか。ちょっとその辺教えてください。

○委員長（日野雄二君） 集客担当課長。

○集客担当課長 各空港さんで様々な助成の制度をお持ちであるということは承知しておりますが、具体的なやり取りについては、申し訳ございません、把握してございません。

○委員長（日野雄二君） 吉村委員。

○委員（吉村太志君） 運航助成金については分かりました。今度、1,950万円の負債のことですが、これは民民の話というのは私も理解しました。民間の話では商流というのがいろいろあって、その中に、例えば初めて取引するところであれば商社が入ったりとか、代理店が入ったりとかするようなことがあると思うんですよ。そうしないと、直でしたときに、取りっぱぐれがあった場合に二重びんたになるから、その辺は今回どうだったんですかね。市は実際に、正直言って関係ないと思います。関係ないといったらあれになるかもしれませんが、市の仕事というか、市のことであったんですけど、民民の話ですけど、今回どういうふうに状況を捉えていますか。あまり時間がないので、お願いします。

○委員長（日野雄二君） 集客担当課長。

○集客担当課長 今、委員がおっしゃられたように、今回、日本への就航が初めてということで、実際にいろんな業者さんの上に代理店さんが入っていたというようなことは私どもも伺っております。ただ、今回初めての事業者様ということで、それぞれ、例えばデポジットを取

るか取らないかとか、そういった部分も対応をされていたと伺ってございます。

○委員長（日野雄二君） 吉村委員。

○委員（吉村太志君） 分かりました。じゃ、この民民の中ですけど、市はその中に入ることはできませんが、ただ、先ほど言ったように、地元の業者さんがそういう負債を受けるということも少しは防げるような部分もあるかもしれません。だけど、これ民民だから仕方ない部分もあるんですけど、ただ、我々、建設業とか聞いたりしたら保証協会が入ったり、保険に入っとくとか、いろんなものもありますので、そういったものがあるのかないのかもまた調べていただいて、今度報告していただけたらと思います。

そして、最後になりますが、うちの自民党の田中委員も言ったように、一回報告したことだから、委員会の場でなくても各委員に一言、こういうふうにハイエアが運航していた分について履行しましたが、このように休止になってしまったというぐらいの情報は私は入れるべきだと思います。そういうことがないから、ボタンの掛け違いではないですが、お互いがいろんなことを疑心暗鬼になってしてしまうんじゃないかと思いますので、そこはしっかりこれからも、言いながら今回いろんなことがありました。私たちはやはり港湾空港局の皆さんには、北九州空港を盛り上げてもらうためにさらなる就航を獲得してきてもらわないといけませんので、これで、いやもうやめましたと、北九州空港にどこも来ませんとならないように、私たち議会も応援できる分はしていきたいと思います。ただ、その分、これからはさらに慎重に報告もしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

○委員長（日野雄二君） この件について、長くなりますので、委員長から締めたいと思うのですが、副委員長、いいでしょうか。

る意見がありましたが、最大のポイントは、令和5年6月26日に本委員会において国際旅客チャーター便（韓国・務安線）の就航についてという文面も出して、本委員会はこの海外のチャーター便の運航も広げるというのが仕事でありますから、そんな中、倒産ということが9月にあったのであれば、今までなぜ言わなかったのか。これは、チャーター便で2,800名を連れてきて、インバウンドで経済波及効果はあった。そんなことよりも、航空会社の選び方が間違っていなかったのか、事前の調査も含めて。それもはっきりやらなければ、今後、航空事業者に負担をかけるということになってしまいます。それでは北九州空港の信頼は失われます。

何よりもかにも、次からは事前の調査というのが大切であるということ。それから、石橋をたたいて、チャレンジですから石橋もたたけないかもしれない。だけど、ちゃんと払うものを払わないで、払わんでよかったね。これでは済まないということ。私が航空事業者であれば、負債の1,950万円は、運航助成金のほうから下さいよと言う可能性もある。だから、払わなかったからよかった。報告もしなかった。事前にそういうことは特別委員会で委員長、副委員長には当然ながらすべきこと。これを怠ったということ。委員の皆様にもそれを怠って、本

会議場で知ったということ自体がおかしなことではないかということをお私から強く港湾空港局に、今後のことを考えたらこんなことあったらいかん、フェリーのこともあったから言ってるんだよ、これ。フェリーで失敗した、いろんなこと失敗してるんだから。だから、こんなことあっちゃいけないということです。

これについてさっきから課長ばかりが答弁しているけど、部長ぐらいが答弁するというぐらいの気持ちがないといけないんじゃないか。それ以上は言わんけど。これを聞いて内容を見ているうちにだんだん腹も立ってきて、最初はそうでもなかったんですが、皆さんもこの中身がどうだったのか考えたときに、務安から来てよかったねと。だから、今度は光州に行きましょうねとまでみんなで言っていたんですよ、委員会で。だから、報告をしっかりと。もうこれでこの件については締めますけれども、いいでしょうか。代弁として、皆さんの思いも含めて、行政に対して一言物を申しておきます。これは、ちゃんとこれから、また報告も含めてしてください。大久保委員。

○委員（大久保無我君） すいません。一言というか、僕が一番心配するのは、未回収債権が1,950万円あるじゃないですか。こういう被害を受けてしまった会社などが、次から、市からこういうのが来るので受けてくださいみたいな話になったときに、受けたくないという話になって、そもそも飛行機が来なくなるんじゃないかとかということも、ないかもしれないけれども、あり得るかもしれないじゃないですか、こういうことが起こるとですね。なので、債権回収についてもしっかりバックアップするというか、サポートしてあげてほしいと思います。そういうことがあれば絶対次につながるでしょうけど、なければ次につながりにくいのではないかとということで、そこもぜひよろしく願いできればと思います。

港湾空港局がすごく路線誘致に頑張っているというのは、もちろんよく分かっています。路線の誘致もある意味、賭けではないですが、いろんな航空会社がある中で破綻している会社もたくさんあるわけですから、どうなるか分からないんですけども、委員長が言われたように、しっかり事前の情報や、うわさなどもいっぱいあるでしょう。賃金の未払いなどがあるとかといううわさが、もしあつたりすると、用心していかなければいけないのだろうと思いますので、情報収集もしっかりしていただきながらも、債権の回収については、できる限りの手を尽くしていただくようなことを考えていただければということをお希望いたします。

○委員長（日野雄二君） 要望でいいですね。

○委員（大久保無我君） はい。

○委員長（日野雄二君） 分かりました。

それでは、すいません、こちらの時間の都合もありますので、視察もありますので、進めさせていただきます。

次に、所管事務の調査を行います。

行政視察についてお諮りします。

本委員会の行政視察について、正副委員長案を作成しましたので、お手元配付の資料を御覧ください。行政視察は、令和6年1月22日から23日までの2日間の日程で、熊本空港及び神戸空港のアクセス鉄道について視察を行う案としています。この正副委員長案について、質問、意見はありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定します。なお、議員派遣要求書を議長宛てに提出しますので、御了承願います。

ほかになれば、次に、本委員会の所管事項のうち、北九州空港における航空ネットワークの継続・発展及び利用促進、並びに就航航空会社への支援の在り方について及び北九州空港の滑走路3,000メートル化の早期実現等、機能強化についての以上2件を一括して議題とします。

本日は、本事件の調査研究の一環として北九州空港の現地視察を行いたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定し、以上で会議を終了し、これより視察に向かいますので、時間が遅くなりましたが、委員の皆様、議事堂玄関前にお集まりいただければと思います。以上で終わります。

北九州空港機能強化・利用促進特別委員会 委員長 日野雄二 ㊦